

## 東京

### 東京鰐陵会の最近の取組みの紹介

木村 貴則 (33回生)

平成二十九年十一月十二日開催の第二十六回東京鰐陵会（鰐陵同窓会東京支部）総会は、参加者百四十三名を得て無事に終了しました。この総会で役員改選が行われ、二期四年間続けた会長を37回生佐藤悠氏に引継ぎました。今後は監事として活動を側面から支援して参ります。会長職の前五年間の事務局長を加えると九年間に亘り執行部として携わつ

## 東京鰐陵会



木村貴則会長の挨拶

た会の運営について総括しますので参考になれば幸いです。

#### (1) 会の運営を総会収入で賄う事

事務局長を引継いだ頃は、二年毎の総会開催であり、総会で得た運営資金は二年目になると底を衝き役員の出出しや次期総会までの借り受けで凌ぐ場合がありました。経費削減を徹底し、他校の同窓会参加も極力減らしましたが追い付きません。そこで総会収入で賄うためには、会則を改定して二年毎開催を毎年開催に改めました。その上での増収策は、①総会出席者の会費の内千円を運営資金に当てることを総会案内状に明記したこと、②会報紙『東京鰐陵』を総会毎に発行し総会の様子を写真入で会員に伝え連携のツールにすること。合わせて総会欠席者には通信費+運営資金援助として一口千円以上の援助を要請すること、その代わり会員で活動を支える事を

強調して広告収入を求めないことでした。この資金援助は前回総会では百六十二名から四十九万二千五百円を得ました。目下の大きな活動支援として運営を支えています。

#### (2) 広報紙『東京鰐陵』の紙面の充実

九月に総会開催の案内状を会員に送りますが、この時前回総会の模様を記載した『東京鰐陵』を同封することにして二月から編集作業を始め八月に完成させています。編集委員は、三宅哲参与、杉山明理事、木村貴則会長の専任三名で行いました。心掛けたことは、①総会欠席者にも総会の様子を写真入りで伝え、総会配付資料の記事を全て掲載すること。②欠席者から寄せられた近況報告をそのまま掲載すること。③総会出席者名簿と運営資金提供者名簿を回生別に掲載すること。④会長や来賓の挨拶は、当日会場で収録したままをダビングして載せること等で臨場感を出すことに努めました。

#### (3) 総会のプログラムの充実を図ること

総会は第一部議事審議、第二部イベント、

第三部懇親会の三部構成として、全体で三時間を確保する様に会場と交渉した。食事の形式は、高齢者の参加が多いことに配慮して、着席の卓盛り形式とした。そして同期生は同じテーブルに座る様に着席表を作成した。第二部のイベントでは、会員の活躍を紹介することとした。これまでに心臓外科医、写真家、トランペット奏者、ジャズボーカリスト、作曲家とテノール歌手等を紹介している。三時間の内前半一時間で審議事項やイベントを終え、懇親会は二時間を確保した。懇親会の中にもイベントを盛り込んだ。初めの頃は①在学中の部活動の様子を紹介するために、同じ部活の参加者に登壇して貰い当時の様子を語って貰った。色々なエピソードが聞けて面白かった。水泳部が山形市での大会の



第二部「ミニコンサート」出演者

応援旗を振り回して応援歌を高唱する場面も無くなるかもしれない。寂しいことですが、男女共学の女子が気楽に参加できる仕組みを

帰りに蔵王に登り、お釜で泳いだ話も聞けた。

②部活紹介が一巡したので、喜寿、米寿の参加会員に登壇して貰い、会長から記念品を差し上げ代表に挨拶をして貰っている。四年間続けているが好評なので継続としたい。

③懇親会二時間のうち一時間を『歓談タイム』として舞台での催しを止め、お喋りに徹して貰うことにした。同期生、部活の仲間、卒業中学の先輩後輩の歓談の輪が出来ます。

**(4) 同期会兼同窓会の開催とすること**

同期会と同窓会をリンクさせて開催することを提案している。そのため予め開催日を十一月第二日曜日とし、開催場所は当面の間、縁のある東海大学校友会館と固定した。総会に合わせて同期生が年一回集う様にすれば、召集の手間を掛けずに集まれるので、賛同する同期生が増えて参加者増加に寄与している。

**(5) 若手の参加者の獲得が課題である**

今年の参加者は19回生から73回生までであるが、主力は20、30、40回生台で50回生を超えると数人と少なくなる。若い人を獲得しないと永続的發展は望めない。若い人を獲得するには、彼等彼女等の住所を知らなければ案内状も出せない。そこで取り組んでいるのは、①石高の卒業式前日の同窓会入会式の際

考えねばならないだろう。女子は、華やかな会場と食事と催しの内容（イベント）に興味があるかもしれない。女子の役員を交えて一



御来賓各位と役員

に、『東京鰐陵会への入会のお誘い』と会報紙『東京鰐陵』を全員に配付し、関東地区に居を構えて落ち着いたら入会することを勧めている。②今年の本部総会の主管は63回生ですが、総会後の二次会に顔を出して同じ勧誘を行いました。目下のところ成果はゼロです。この活動は継続して若手の入会を促します。

**(6) 同窓会の永続的發展のために**

同窓会活動も時代と共に変わるでしょう。

緒に楽しい同期会兼同窓会とすることが永続させるポイントと思われれます。

(東京鰐陵会前会長)